

再び一斉

日本国憲法が公布（1946年）された3日午後1時、俳人の金子兜太（とうた）さんが書いた「アベ政治を許さない」のポスターが全国一斉に掲げられました。作家で九条の会呼びかけ人の澤地久枝さんが、毎月3日午後1時に掲げようと新たに提案した行動です。

国会正門前

澤地さんやジャーナリストの鳥越俊太郎さんが呼びかけた、7月18日午後1時の一斉行動は、全国1000カ所以上で行われまし

た。今回は再開第一回。「戦争法はいますぐ廃止」「原発廃止、福島守れ」「再稼働反対」「辺野古の新基地絶対反対」「憲法守っていいを取り戻しましょう。」

ます。国会開け「野党は共闘」。国会正門前では、女優の木内みどりさんが太鼓のリズムに合わせてコール。午後1時きっかりに「アベ政治を許さない」のポスターを高く、力強く掲げました。800人を超える人が参加しました。

作家の落合恵子さんは「この国に民主主義を取り戻しましょう。」

参院選で答えをだしましょう。あきらめず動いていきたい」と語り、歓声がわき起こりました。翻訳家の池田香代子さん、ルポライターの前田謙さん、作家の渡辺一枝さんはじめ、参加者が次つぎにスピーチしました。

午後1時前から「戦争させない」のポスターを掲げていた佐藤知子さん(66)「東京都練馬区」は「原発反対の時から国会周辺の集会やデモにきています。ずっと訴え続けたい」といいます。

同新宿区から参加した女性(72)は「一緒にきた隣でポスターを掲げる女性(92歳)よ、孫には戦争の悲惨さはあじわわせたくなかった。安倍さんは絶対おかしい」と話していました。

民主主義取り戻そう！ ずっと訴え続けたい

澤地さん「小さな勇気試される」

長野・阿智村

澤地久枝さんは、講演で訪れた長野県阿智村で、地域住民とともにポスターを一斉に掲げました。講演会に来た人たちも澤地さんを待ち構えて、行動に加わりました。

澤地さんは「私の満蒙開拓団体験」と題した講演で平和の思いと行動に言及。「(ポスターを)ずらりと入り口に並んでみんなが掲げていた。本当につれなかった。(誰も)が平和で幸福な、ほとほとに満ち足りた生活ができる日まで、毎月3日」

スタンプディングに参加した「ターンの女性(35)は「自分の意見を一人ひとりで示して、戦争法を廃止させる。小さな村から平和を発信していきたい」と語りました。



長野県阿智村、ポスターを掲げる澤地久枝さん(山中) 11日

高畑勲監督 行進&トーク

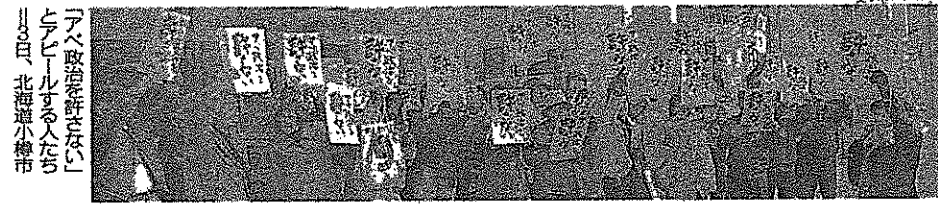


戦争法廃止を訴える映画監督の高畑勲さん(左) 11日、東京都練馬区

東京都練馬区の「憲法公布記念平和パレード&リレートーク」には、アニメーション映画監督の高畑勲さん(80)が参加し、約180人と一緒に声をあげ、2駅分の距離を歩

きました。高畑さんは、出発式と石神井公園駅前でのリレートークでマイクを握りました。11歳のときに公布された新憲法に感激したとの

べ、「憲法は押し付けたかどうかでなく、いい憲法かどうか大事」と力を入れて述べました。戦争法については「施行をやめさせるたたかいを」と訴えました。



「アベ政治を許さない」とラベルする人たち 11日、北海道小樽市

あるべきです」とマイクを握りました。国会前の行動にも参加した鳴海一芳さん(61)は「戦争法が通っても勇気はしてない。若者が自分の言葉で語る姿を見て、将来を悲観することはないと思った。反対する職員を送り出すため、力を合わせがんばろう」と呼びかけました。

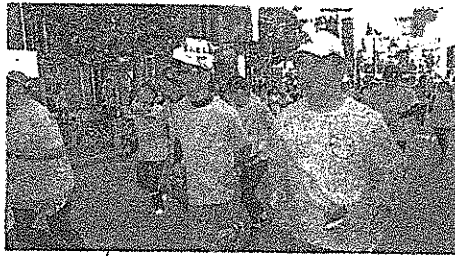
47歳の女性は「今は戦前なのかと不安ですが、平和な日本は私たち国民がつくるもの。今やれることをやって、安倍政権を退陣に追い込みましょう」と訴えました。

1/4 赤旗

命と憲法を守る

東京

「守ろう平和！ 守ろう医療！」を医師・歯科医師が3日、11・3ドクターズ・ラン&ウォークを東京都内で行いました。2011年秋に震災復興と医療再生に必要な診療報酬改定を目的に



「守ろう平和！ 守ろう医療！」とおこなわれたドクターズ・ラン&ウォーク=3日、東京・新宿

ドクターズ・ラン&ウォーク

発足したドクターズ・デモンストレーション実行委員会の主催。正午すぎ、東京・新宿駅東口に、その日の黄色いTシャツを着た約80人が参加。「アベ政治を許さない」のポスターを掲げ、アビール。「戦争法が成立し、ここにお金が使われると、良質な医療が届けられなくなる」「TPP（環太平洋連携協定）は密室で合意し、国会で説明をしよう」としない。「握りの大企業のためのもの」とり、レイトークしました。全国保険医団体連合会の住江憲男会長は「きょうは憲法公布の日。二度と戦争をしないと誓ったのに、安倍政権は戦争法を成立させた。愛する夫、子ども、孫が殺し、殺される事態になることは断じて許されない。抗議の世論をうねりとしてつくっていく」と呼びかけました。歩行者天国、明治通りを「命を守る」「憲法を守る」とアビールして、渋谷駅八チ公前へ。沿道からは「お医者さんのグループじゃない」という反応や、「ファイト！」と声援が飛びました。鹿児島市から来た小児科医の松下賢治さん（65）は「戦争法は私たちの暮らし、安全を守らない。国民の声を聞かない政府に怒りを感じる。若い人たちのように自分の言葉で行動しなければならぬ時代だ」と話しました。

戦争ノ

11/4 五旗

全国各地 走る・集う・話す

憲法のつどいに550人

広島

広島県9条の会ネットワークと、ひろしま医療人・九条の会は3日、広島市内で憲法のつどいを開き、約550人が参加しました。同志社大学大学院の浜矩子（のりこ）教授が「日本国憲法は地球時代の救世主」と題して講演しました。浜氏は「アベノミクスは『アホノミクス』であり、日本を戦前の富国強兵の大日本帝国へと戻そうとしている」と批判。キリスト教の聖書の言葉を引用し、「誰も一人では生きていけないグローバリ時代には、『アホノミクス』を超えて目指すべきは『正義と平和が出合う場所』である。日本国憲法は私たちをそこへ導く力を持っている」とのべました。医療人の会世話人の青木克明医師は「憲法

が定めた平和的生存権は世界的価値がある」とあいさつ。9条ネットワーク事務局長の石口俊一弁護士は「参院選で戦争法に賛成した議員にノーの声を突きつけよう」と呼びかけました。参加者はつどい後、

基地の街からコール

横須賀

「戦争法の廃止」を一致点に神奈川県横須賀市民の有志でつくる「横須賀ALS（オールズ）」は3日、「基地の町から戦争反対を訴えます」と市中心街をパレードしました。約200人が参加し、ドラムの伴奏に合わせて、

「参院選で戦争法に賛成した議員にノーの声を突きつけよう」と呼びかけました。参加者はつどい後、横須賀中央駅前で集会を開きました。パレードが自立ち、行進中のり次々に発言。横須賀市で3人の子どもを育てる女性は「自衛官の

家をつくりあげようと、アメリカと一緒にはじめたくなく戦争できる国は、自衛隊を海外で命の危険にさらすもの。戦争法に反対し、民主主義と立憲主義を守るために声を上げます」と訴えました。参加者は行進後、横須賀中央駅前

「参院選で戦争法に賛成した議員にノーの声を突きつけよう」と呼びかけました。参加者はつどい後、



つどい後に「アベ行進」をする参加者=3日、広島市中区



沿道の市民に戦争法廃止を訴える「横須賀ALS」のパレード参加者=3日、神奈川県横須賀市

70年間築き上げてきた平和を覆そうとする安倍政権を倒そう（井坂県議）などと参加者を激励。無党派の市議もあいさつに立ちました。横須賀市の細田直樹さん（45）は「日本が戦争に巻き込まれ、子どもが死ぬような事態にしたくない。多々の人に戦争法の危険性を知らせ、早く安倍首相を辞めさせたい」と話していました。